

(仮称)生涯学習センターのホール規模の検討

- ・実績から、確実に今後も利用が見込まれるもので最大利用となるのは「小中高合同音楽祭」であり、600席程度は必要と判断する。
- ・通常の公民館事業で、現中央公民館の大集会室の利用規模としては300人程度がMAXである。公民館では新施設建設に伴い、複合施設の利点を活かし、これまでの事業+ α で事業計画を組んでいくという考えがあるが、これまでの事業実績から600席あれば十分という認識である。
- ・現在、中央公民館の大集会室では、作品展等の展示スペースとしての需要も大きく、秋口は延べ利用日数が10日以上となる月もある。公民館では、今後も新施設ホールでの作品展等の開催を見込んでいる。現計画(600席)では新施設の客席は可動式であり、平場利用とした場合、面積は現大集会室より50㎡程度の増にとどまり、現状からその面積は著しく乖離しない。
- ・管内で実績のあるイベントに、本町に1,000人規模の施設が建設された場合の事業実施の可能性について照会したところ、人口規模、商圈、立地等を考え、実施は困難との回答であった。
- ・根室市、中標津町の施設の利用状況について、両施設とも1,000人規模のホールを有しているが、ホール全体を使用した事業としては年間10件前後となっており、本町の地理的条件や商圈の状況を考えると仮に1,000席を整備したとしても稼動は見込めない。
- ・建設コストについて、600席から1,000席とした場合、6億円増との試算が出ている。具体的な事業プランがない中でこれだけの公費を投入することに対し、町民、国への説明が困難である。
- ・ランニングコストの比較については、電気代のみで年間120万円の増となっているが、このほかに設備の保守等にも差が生じると考えられ、これ以上の負担増が容易に想像される。

以上のことから、検討事務局では600席が適当と判断した。